国語科学習指導案

指導者　　黒渕　大介

1　日時　　平成１７年１２月２日（金）

2　学級　　２年Ｅ 組　　男子１５名　女子１８名

3　主題名　　二　世界に目を向ける　「マドゥーの地で」

4　主題の目標

・ 自分と世界のかかわりやより広い世界について考え、視野を広げるために、進んで話し合いに参加している。（関心・意欲・態度）

・表現の特徴、構成や論理の展開をとらえながら、筆者の考えを理解し、そこから自分の意見を見いだしている。（読む）

・自分の立場や伝えたいことを明確にし、根拠を示して論理的な文章を書いている。（書く）

・インタビューの受け答えの仕方を理解し、話の中心や、事実と意見の関係に注意しながら、的確に話したり、聞いたりしている。（話す・聞く）

5　主題について

（１）教材について

本単元は「伝え合い」「マドゥーの地で」の二つの教材で構成されている。どちらの教材も、世界に目を向けたものである。情報化社会・国際化社会では、人と話し合ったり、交渉する場面が多くなるであろう。自分の意見を述べるためには、根拠となる事実をもとにして、考えのすじ道を追って、意見を正確に述べなけらばならない。そのため、二つの教材の読み取りを通し、学習者である生徒が、疑問点や興味関心のある点を見いだし、文章にまとめて話し合うことという学習内容を設定している。

本教材の「マドゥーの地で」は、作者が国境なき医師団の一員として、紛争地での任務を通しながら、筆者が学んだことが述べられている。ここでは、世界での過酷な地での任務を通して、自分の生きる意味を見つけた感動を味わわせたい。そして、筆者の考えをとらえるとともに、自分の考え方や生き方を振り返り、深める契機とさせたい。

（２）生徒の実態

素直で明るい生徒が多く、授業にも、与えられた課題に取り組んだり、ノートをしっかり取るなど落ち着いて取り組む雰囲気である。しかし、その反面、じっくり考えることを苦手にしている生徒も見られる。

国語の授業については、好き（３人）、どちらかといえば好き（２２人）と、７割以上の生徒が意欲的に取り組んでいる。しかし、文学的文章と説明文では、約８割の生徒が文学的文章が好きだと答えており、説明文を苦手とする生徒が多い。また、「自分の意見を話すことができるか」という問いには、どちらかといえばできない（１２人）、できない（７人）と、半数以上が抵抗感を感じている。「自分の意見を書くことができるか」という問いには、どちらかといえばできない（１２人）、できない（２人）と、およそ４割が抵抗感を感じている。

（３）指導の構想

この授業では、目的に沿って必要な情報を取り出し、読んだことを表現させるための手段として新聞作りに取り組む。作者のあゆみをまとめることで、段落ごとのおおまかな要点をとらえさせたい。そして、作者へのインタビューをまとめることで、マドゥーでの体験を通した作者の内面の変化をとらえることができると考える。インタビュー形式ということで、常体と敬体の使い方や、読み手を意識した書き方にも意識させるなど、表現力の向上も目指したい。

6　単元の指導計画　　（５時間）

第１時　「伝え合い」の読み取り
第２時　「伝え合い」の読み取り
第３時　「伝え合い」の読み取り
第４時　「マドゥーの地で」の読み取り　　語句の確認と段落分け
第５時　「マドゥーの地で」の読み取り　　貫戸朋子さんのあゆみをまとめる。
第６時　「マドゥーの地で」の読み取り　　貫戸朋子さんへのインタビューをまとめる
第７時　「伝え合い」「マドゥーの地で」を参考にして、意見文を書く。

7　本時の指導
（1）主題名　　二　世界に目を向ける　「マドゥーの地で」

（2）本時の目標
「マドゥーの地で」を読み、筆者の体験や考えをとらえて、インタビュー形式でまとめることができる。

（3）本時の展開

	学　習　内　容	学　習　活　動	指導上の留意点	備　考
導入 5分	1　課題把握 2　課題設定	・本時の課題を確認する。	・貫戸さんのあゆみについて確認する。 ・インタビューのときの表現方法を確認する。	
	貫戸朋子さんへのインタビューを、新聞形式でまとめよう。			
展開 40分	3　課題追求	・質問１・２に答えるために、教科書を読む。 ①マドゥーでつらかったことは何ですか。 ②なぜ、マドゥーでの活動を続けたのですか。	・インタビューに答えるためのてがかりとなる形式段落（３・４）を確認し、根拠となる表現に線を引かせる。	評価１
	4　新聞記事作成	・二人一組で交互にインタビューをする。 ・インタビューの内容を新聞形式でまとめる。 ③これからどうしようと考えていますか。	・教科書の読み上げにならないように意識させる。 ・①酸素ボンベを切った経験と、外出禁止令のため、病院に送れなかった経験に注目させる。 ②作者がマドゥーから与えられたことについて注目させる。 ・余力のある生徒には、質問③にも取り組ませる。	評価２
	5　発表	・インタビューの内容を発表する。		
終結	6　まとめ	・ボスニアに向かった作者の気持ちを確認する。		

（４）本時の評価の視点と評価規準及び支援計画

評価１について

① 評価規準　　・マドゥーについてのインタビューに答えることができる。

② 評価方法　　・話し合い

③ 評価規準及び支援計画

十分満足　　（A）	おおむね満足　　（B）	努力を要する生徒への支援
マドゥーについての体験を読み取り、言葉の使い方にも注意しながら、マドゥーでつらかったことや得たことやを、わかりやすく話したり､聞いたりすることができる。	マドゥーについての体験を読み取り、言葉の使い方にも注意しながら､わかりやすく話したり、聞いたりすることができる。	段落 17 ～ 21 の、手がかりとなる言葉に注目させ、マドゥーでの経験を説明できるように助言する。

評価２について

① 評価規準　インタビューの内容を新聞形式でまとめることができる。
　　ことができる。

② 評価方法　　・プリント

③ 評価規準及び支援計画

十分満足　（A）	おおむね満足　（B）	努力を要する生徒への支援
手がかりとなる言葉を意識しながら、マドゥーでのつらかった出来事や得たことを読み取り、生きがいを得た作者の今後を想像しながら、わかりやすく新聞形式にまとめることができる。	マドゥーでのつらかった出来事や得たことを読み取り、作者の今後を想像しながら、新聞形式でまとめることができる。	つらかった体験や、マドゥーでも喜びに注目させ、読み手を意識しながらわかりやすくまとめるように助言する。